

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	郡上 長良川源流域森と川の恵み 集落再生 実証事業		
(2) 実施団体名	郡上地域活性化協議会	(3) 対象地域	岐阜県郡上市
(4) 代表団体名	八幡信用金庫	(5) 推薦団体名	郡上市

(6)実施した取組の内容	取組①	郡上森林七景選定・トレッキングプログラム開発	
	実施主体	郡上森林七景選定委員会 委員長 前田守廣（郡上建設業協会 理事長）	
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	
		実施内容： ①森林七景選定（7件） ②トレッキングルート開設（2コース）、モニタリングツアー 試験実施（2回） 実施期間：9月-10月 取組の目的： 長良川源流域として誇れる景観を選定し、森林価値の再評価を促す。併せて森林七景と清流スポットを組み合わせたトレッキングルートを開設。モニタリングツアー2回の模擬実施。	実際の取組内容及びその結果 実施内容： ①「奥美濃・郡上きつと誰かに伝えたい風景80選」選定、冊子作成（2月） ②16コース、1エリア選定・基本情報収集調査実施（10月-1月） ・ワークショップ2回（10/8、11/25）、モニタリングツアー2回（10/27、12/5） 取組の結果： ・市民等からの情報に基づき、計画を大幅に上回る80風景を選定。トレッキング（ウォーキング）コースについてはローカル線（長良川鉄道）の活用も狙い駅を起終点とする13コースを選定。全体で16コース・1エリアを選定。 ・モニタリングツアーはUターン、Iターン者を加えて実施。地元住民には当たり前の風景が十分に観光資源となりうることを確認。
	取組②	DECO（デリバリーエコ）ハウス販売促進	
	実施主体	DECOハウス販売戦略検討委員会 委員長 可児隆一（郡上森林組合 組合長）	
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	
		実施内容： ①市内道の駅にモデルハウス（郡上産間伐材利用）設置、PR ②購入希望者調査 実施期間：9月-12月 取組の目的： 地元産間伐材を利用した低価格コンパクトコテージハウス（DECOハウス）の販路開拓。	実際の取組内容及びその結果 実施内容： ①道の駅に8畳タイプモデルハウス設置（10/1） ・6畳タイプを追加設計（11月）、販売促進用パンフレットの制作（1月） ②コンシェルジュによる顧客情報調査実施（11/3 以降土日祝日実施） 取組の結果： ・来場者から「杉の香り」や間伐材特有の「節」について高い評価。具体的な問い合わせは16件あり、都市部の方が郡上に別荘として建てたいというニーズが多い。 ・用途ニーズとしては「店舗」「書斎」等様々なものがあるが、オーダーメイド的な対応が可能である点も好評。 ・仕様が確定し、パンフレットも作成されたことから、2月より販売活動実施。
	取組③	折立 昭和の里山再生（廃村集落再生）	
実施主体	昭和の里山再生委員会 委員長 和田繕長（郡上市観光連盟 会長）		
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		
	実施内容： ①有償ボランティアによる棚田再生事業 ②収穫した大豆を加工した豆腐の試験加工・販売 実施期間：9月-12月 取組の目的： ボランティアによる廃村集落の棚田再生事業を実施、併せて収穫された大豆を利用した豆腐の試験加工・販売を実施。	実際の取組内容及びその結果 実施内容： ①10/5棚田草刈作業（136名）、10/11荒廃農地開墾作業（56名） ②豆腐の試験加工・販売（やまと道の駅）（2月-3月） 取組の結果： ・構成団体を通じ地元ボランティアを多数投入して作業実施。 ・収益事業のひとつの手段としての大豆栽培・豆腐加工に係るデータ整備ができた。販売は2月に道の駅で行う予定。	

取組④	奥美濃郡上・とっておきの味研究開発	
実施主体	郡上とっておきの味研究開発委員会 委員長 奥村義雄（郡上漁業協同組合 組合長）	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容： ①キジ育成、石徹白かぶら栽培実証データ収集 ②石徹白かぶらの加工品開発・試験販売 実施期間：9月-平成21年2月 取組の目的： 休耕地活用が可能なキジ育成を集落の収益事業として展開するためキジ料理開発、販路拡大を行う。門外不出の石徹白かぶらの加工品開発による特産品開発を行う。	実施内容： ①キジ400羽育成（10月-2月）、石徹白かぶら栽培加工250kg（10月-12月） ②石徹白かぶら加工品開発・道の駅での試験販売開始（12月-2月）、キジおよびかぶら試食アンケート調査実施（11/24、12/13、1/29、2/1、2/6） 取組の結果： ・キジ生育は順調、飼料コスト抑制ができれば生産体制確立は可能。 ・キジ試食アンケートではほぼ全員が料理の味に「満足」と回答。 ・石徹白かぶらは味の評判も良く、販売価格も妥当と回答が多かった。
取組⑤	長良川鉄道で巡る 郡上とっておきの味巡りの旅開発	
実施主体	郡上とっておきの味巡りの旅開発委員会 委員長 野田紘一（八幡信用金庫 理事長）	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容： ①郡上味覚・郡上鮎めぐり（10月） ②森林・里山レンジャー（11月） ③酒蔵・町並み・温泉（12月） 取組の目的： 長良川鉄道とバスツアーを組み合わせた味巡りツアーをプログラム化する。	実施内容： ①②③モデルツアー3回実施（11/24 25名、11/2 20名、2/1 36名） 取組の結果： ・参加者は市外在住の方が中心。長良川鉄道とバスを利用した移動についてはほとんどの参加者が「満足」と回答。鉄道とバスツアーの組み合わせが効果的であることを確認。 ・ツアーの評判も良く、第3回ツアーは応募が定員の倍となるなどの反響。
取組⑥	産業情報センター・資源活用サービス発信	
実施主体	情報センター事業推進委員会 委員長 臼田和博（郡上市商工会 会長）	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容： ①産業情報センター機能をもったコンシェルジュ活動 ②DECOハウス購入相談（モデルハウス内） 実施期間：9月-2月 取組の目的： 食開発の取組み、交流プログラムに関する情報発信と市内の重要と供給を結びつけるコンシェルジュ活動を実施。併せてDECOハウスをブースとして開設し、利用相談、購入相談を実施。	実施内容： ①産業情報センター機能をもったコンシェルジュ活動 ・協議会ホームページの開設による元気再生事業等のPR（11/25） ・DECOハウスをブースとしたコンシェルジュ業務開始（11/3以降土日祝日） ②DECOハウスの顧客情報調査実施（11/3以降土日祝日） 取組の結果： ・積極的な情報発信により各取組が新聞・CATVで多く取り上げられた。 ・DECOハウスについてコンシェルジュ（女性）による説明の評判がよく、多くの方に興味を持っていただくことができた。
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	<当初計画> 郡上地域活性化協議会：下記6団体で役割を分担。 ・八幡信用金庫：代表団体。事務局活動全般を担当。 ・郡上森林組合：取組①、取組②を担当。 ・郡上市商工会：取組③、取組④、取組⑤を担当。 ・郡上市：取組⑥を担当。 ・郡上市建設業協会、郡上市観光連盟：各取組に対する協力。 （今年度、新たに協議会構成団体として郡上漁業協同組合が参加）	取組の実施を踏まえた反省点 委員会設置： ・取組内容が多岐に渡ることから、短期間に集中して事業を遂行する必要があったことから、当初の計画を変更し、各取組毎に委員会を設置することとした。 ・各委員長として構成団体の役員を任命。委員として協議会構成員および協議会下部組織（実働部隊）である異業種交流会構成員を配置。 ・関係者間の調整およびスケジュール管理等のため、八幡信用金庫が組織内に役員3名を含むプロジェクトチームを設置（12名体制）し、各取組に対して事務担当者を1名づつ配置し、円滑な事務局運営を行った。

(8)取組により得られた成果	○成果1→ 集落資源を活かした商品開発と交流ビジネスの融合で新事業による収益力の向上を図る。	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	本事業による売上高 250千円	本事業による売上高1,800千円
	H20(実際に得られた成果) 2,000千円	
	・豆腐売上(道の駅)1,000千円、キジ料理売上(道の駅レストラン)800千円、石徹白かぶら売上(道の駅)200千円 ・石徹白かぶらは郡上市による特産品化への取組(生産供給体制の確立)を促す成果を得た。	
	○成果2→ 交流施設や交通機関との連携によるテーマ型交流プログラムを実施し、観光地ではない森林や小集落への誘客を図る。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	H19	H20(当初予定していた目標)
	新事業の交流サービス利用者数 1万人	新事業の交流サービス利用者数 1.1万人
	H20(実際に得られた成果) 1.2万人	
	・自然体験交流プログラム参加者(市内団体):10,323人(4月~12月実績)、トレッキング(ウオーキング)モニタリングツアー等参加者54人、DECOハウス来場者1,000人(概算計算)、豆腐購買者700人、棚田再生ボランティア192人、石徹白かぶら購買者180人、石徹白かぶら試食アンケート108人、郡上とおきの味巡りの旅モデルツアー参加者81人。合計12,638人で目標の1.1万人を上回る見込みである。 ・郡上森林七景選定への取組が、郡上市が取り組み予定している「郡上百景プロジェクト」の先導的取り組みとして評価され、連携していくこととなった。 ・地域自身でツアーを企画するという新しいスタイルについて、市内観光関連団体からの反響が大きく、新たな観光ビジネスへの可能性が確認できた。	
	・取組①: 景観およびトレッキング(ウオーキング)コースは当初の計画より上回る数が選定され、当面の目的は達成された。 ・取組②: DECOハウスに対する問い合わせが予想よりも多く、また、郡上産杉材(間伐材)を使用することの評価も高く販売の可能性が確認できた。 ・取組③: 持続可能な棚田保全にはボランティアによる取組だけでは不十分。体験交流農園等による収益事業と絡めた取組へと発展させる。 ・取組④: キジ料理について今後は需要創出のための仕掛けが必要であり、ファーストフード的な商品開発やPR活動を行う。 ・取組⑤: 日帰りツアーに関する調査結果を得ることができたことから次年度は商品化に向けた取組(宿泊プラン企画・PR活動)を具体化させる。 ・取組⑥: 郡上市全体の自然・歴史等の情報を蓄積し、情報発信の量・質を高める必要あり。また、コンシェルジュの増員も必要。 ・取組全体: 事業の継続性も考慮し、次年度は各取組を集約するとともに「民間の知恵」を活かして必要経費を抑えつつ効果ある活動を展開する。	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	取組①郡上森林七景トレッキング ・郡上森林七景トレッキングイベントの開催(21年)	【協議会での取組は終了】今年度の成果を郡上市観光連盟、長良川鉄道、自然体験活動団体等に提供し、各団体に働きかけ、自主的な取り組みを進めてもらう。
	取組②DECOハウス販売 ・DECOハウス販売事業活動(21年-22年)	1. DECOハウス販売・企画(担当団体: 森林組合) ・販売体制確立(H21年) ・DECOハウスを活用した産業活性化(インキュベート施設・チャレンジショップ)検討(21年) [活用を希望する制度: 地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)]
	取組③折立 昭和の里山再生 ・体験交流農園の開設・里山復活祭開催(21年) ・里山再生による生産物を対象とするファンド事業化(22年)	2. 昭和の里山再生(体験交流農園)(担当団体: 高鷲観光協会(案)) ・都市と農村の交流の場として、また、持続的な棚田の維持のための収益確保を目的とした体験交流農園の開設(21年) [活用を希望する制度: 地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)]
	取組④奥美濃郡上・とおきの味特産販売・料理提供 ・商品製造・販売サービス(21年-22年)	3. 奥美濃・郡上とおきの味・旅開発(担当団体: 郡上市観光連盟) ・キジ料理需要創出のためのファーストフード的な商品開発・PRを実施(21年) ・滞在型(宿泊)プログラム企画・実施、エージェントへのPR、ガイド役の人材育成(21年) [活用を希望する制度: 地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)]
	取組⑤郡上とおきの味巡りの旅通年商品化 ・鉄道利用型旅の通年商品化、販売(21年-22年)	4. 産業情報センター・資源活用サービス(担当団体: 八幡信用金庫) ・コンシェルジュ業務拡大 ・郡上の情報収集・蓄積、郡上市と連携した情報発信展開(21年) [活用を希望する制度: 地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)]

◆主な実施取組の内容◆

取組①郡上森林七景選定・トレッキングプログラム開発(郡上森林七景選定委員会)

実施内容:

- 「奥美濃・郡上きつと誰かに伝えたい風景80選」選定(1月)
- トレッキング16コース・1エリア選定(11月)、ツアー2回実施

実施結果:

- 計画を大幅に上回る数の風景およびコース選定を実施し、郡上の新たな魅力、観光資源付加情報として外部に発信が可能となった。
- 21年度以降郡上市が取り組む「景観プロジェクト(郡上百景)」の先導的取り組みとして評価され、連携していくこととなった。



森林七景

取組④奥美濃郡上・とっておきの味研究開発(郡上とっておきの味研究開発委員会)

実施内容:

- キジ育成、石徹白かぶら栽培加工実証データ収集
- 石徹白かぶら加工品開発・試験販売開始(12月)
- 取組⑤「とっておきの味巡りの旅」試作品提供(11/24、2/1)
- 試食会2回(1/29、2/6)街頭アンケート1回(12/13)実施

実施結果:

- 11/24アンケートでは参加者のほぼ全員が料理の味に「満足orまあ満足」との回答。
- 12/13石徹白かぶらアンケートでは味の評判も良く、販売価格も妥当との結果。



キジ、石徹白かぶら試作

取組②DECO(デリバリーエコ)ハウス販売促進(DECOハウス販売戦略検討委員会)

実施内容:

- 道の駅にDECOハウス(郡上産間伐材利用)設置(10/1)
- 6畳タイプを追加設計(11月)、パンフレット制作(1月)
- コンシェルジュによる顧客情報収集実施(土日祝日)

実施結果:

- 訪問者からは「杉の香り」や「節がコテージにマッチしている」といった評価を得た。
- 具体的な問い合わせは既に16件あり、特に都市部の方が別荘として建てたいというニーズが多かった。



ハウス展示

取組⑤長良川鉄道で巡る 郡上とっておきの味巡りの旅開発

(郡上とっておきの味巡りの旅開発委員会)

実施内容:

- 鉄道遺産と白山文化にふれる旅(11/2 20名)
- 東氏ゆかりの地散策と郡上の技・味体験の旅(11/24 25名)
- 郡上八幡散策と郡上の味堪能の旅(2/1 25名)

実施結果:

- 長良川鉄道およびバスを組み合わせたツアー形式は参加者より満足との評価。
- 第3回ツアーは応募が定員の倍となるなど大きな反響があった。



味巡りの旅

取組③折立 昭和の里山再生(廃村集落再生)(昭和の里山再生委員会)

実施内容:

- 有償ボランティアによる棚田再生事業実施
- ・10月5日棚田草刈作業(136名)
- ・10月11日棚田開墾(荒廃農地開墾)作業(56名)
- 収穫した大豆を加工した豆腐の試験加工・販売開始(2月)

実施結果:

- 地元ボランティアが作業を体験し、棚田の維持(集落の維持)の困難さを実感。
- 収益事業のひとつの手段としての大豆栽培・豆腐加工に係るデータ整備ができた。



棚田再生作業

取組⑥産業情報センター・資源活用サービス発信(情報センター事業推進委員会)

実施内容:

- コンシェルジュ育成(12月1日清里研修など)
- ホームページの開設による元気再生事業等のPR
- コンシェルジュ業務(11月3日以降土日祝日)

実施結果:

- 新聞記事や地元CATVにおいて「元気再生事業」の各取組が数多く取り上げられた。
- 次年度もコンシェルジュ活動を継続するとともに、郡上市と連携して効果的な情報発信を行っていくこととなった。



コンシェルジュ業務

◆取組実施による成果・今後の展開◆

今年度の取組によって基本的な地域資源情報の収集・整理が実施でき、次年度以降に予定している本格的な取組に向けた態勢の整備に繋がった。今後は、以下の4つを活動方針の柱として取り組む。

1. 地域資源を利用した新たな産業創出のための基盤整備
2. 持続可能な集落再生に向けた収益事業への展開
3. 特色ある観光交流プログラムの企画・実施
4. 官民協働による効果的な情報発信体制の構築

なお、継続的な事業へと発展させるため、次年度は各取組を「①DECOハウス販売・企画」、「②昭和の里山再生(体験交流農園)」、「③奥美濃・郡上とっておきの味・旅開発」、「④産業情報センター・資源活用サービス」の4つに集約するとともに「民間の知恵」を活かして必要経費を抑えつつ効果のある活動を展開する。